

# 前期実行計画の検討状況（詳細）

※10月1日現在

## 構想1 宮代らしさを価値として高めていく

### 方針A 町の原風景を形づくる「農」の資源を活かしていく

---

西原自然の森活用事業 (里山体験事業編)	山崎山で培ったノウハウや経験を活かし、西原自然の森においても体験事業や保全事業を実施することで、町の自然を守り育て、魅力を発信する人材を生み出します。
西原自然の森活用事業 (移築民家活用編)	福祉拠点として再整備される旧ふれ愛センターとともに西原自然の森の魅力を高めるため、「加藤家」「齋藤家」「旧進修館」を古い建物の特性を生かした美術作品の展示や音楽活動などの文化活動や体験講座、地域活動ができる場所とします。
新しい村魅力アップ事業	「新しい村」を整備してから約20年。直売施設の増加やインターネット販売の普及など取り巻く状況も大きく変わりました。着地型観光という視点も含めて、調査・分析を行い、「新しい村」の魅力を高める計画を策定し、「新しい村」をより魅力的な空間へと変えていきます。
集落で支えあう営農事業	農業を次世代の担い手にとって魅力ある産業としていくために、農業生産の効率化・省力化を図るとともに、農地集積化を推進し、農作業環境の向上を図ります。
宮代農業人材育成事業	就農希望者のための実践的な研修環境を整え、将来の宮代農業を支える骨太な若手農業者を育成します。

### 方針B 東武動物公園駅西口エリアの魅力を高めていく

---

東武動物公園駅西口 わくわくロード事業	駅から東武動物公園、新しい村までを、町民・観光客・事業者と共にアイデアを出し合いながら、歩いて楽しく、わくわくするような道に整備し、西口エリアの価値を高めます。あわせて、駅西口区画整理エリアの土地活用を促進します。
まちなかどこでもミュージアム事業	既存施設や飲食店など、気軽に美術作品の展示や小さな演奏会ができるスペースを募集し、まちなかにおける作品展や音楽会の開催を促します。このことで地域の人材を発掘し、地域に人々の集まる新しい場所を生み出します。

## 方針C 宮代を発信していく

---

### みやしろズームアッププロジェクト

町の魅力の情報発信力向上を図るため、地元の魅力を再発見し、掘り下げ、自らの言葉でその魅力を発信する市民記者チームを創出します。

### 西原自然の森活用事業 (里山体験事業編) ※再掲

山崎山で培ったノウハウや経験を活かし、西原自然の森においても体験事業や保全事業を実施することで、町の自然を守り育て、魅力を発信する人材を生み出します。

### 西原自然の森活用事業 (移築民家活用編) ※再掲

福祉拠点として再整備される旧ふれ愛センターとともに西原自然の森の魅力を高めるため、「加藤家」「齋藤家」「旧進修館」を古い建物の特性を生かした美術作品の展示や音楽活動などの文化活動や体験講座、地域活動ができる場所とします。

## 構想2 コンパクトな町の強みを活かす

### 方針D 歩きたくなる「まちなか」をつくる

---

#### 遊休資源活用プロデュース事業

官・民を問わず、それぞれが所有する土地や施設などの遊休資源と人・団体等を結びつけ、町の様々な場所での活動の拠点づくりを行います。提案に対して場所を募集するサウンディング、場所に対して提案を募集するサウンディング、この2つを柱とします。

#### 岸辺遊歩道整備事業

備前堀川等において、自治会や地域の関係団体などと共にアイデアを出し合い、地域に親しまれ愛される遊歩道や水辺を整備します。

#### 地域のプライベートパークをつくろう！

身近な街区公園等を一律に”児童公園”として位置付けるのではなく、人々のライフスタイルに合わせて、それぞれが特色のある”場”となるように再整備し、地域の人が集まる憩いの場（青空カフェ、移動販売、健康づくりパークなど）を地域の皆さんとともに作りあげます。

### 方針E 日々の生活のアクセス性を高める

---

#### 宮代型デマンド交通事業

循環バスのルートでないエリアや身体的な理由で循環バスが利用できない方の交通需要に対応するため、宮代町の地勢や特性に合ったデマンド交通を導入します。

広域道路ネットワークの整備（都市計画道路整備）

利便性の高い近隣市町への広域道路ネットワーク構築のため、都市計画マスタープランに基づく都市計画事業整備計画において優先順位を定め、計画的な整備を進めます。

東武動物公園駅東口にぎわいロード事業

駅東口の地域の魅力とアクセス性を向上させるため、駅前広場や都市計画道路を一体的に整備し、他自治体と広域的につながるターミナルとしての機能を高めます。

和戸駅周辺活性化事業

都市計画道路国納橋通り線や都市計画道路万願寺橋通り線の整備に合わせて、産業系土地利用を検討し、民間企業の立地誘導による地域の活性化を促進します。

姫宮駅西側周辺活性化事業

北春日部方面への都市計画道路の整備に合わせて、産業系土地利用を検討し、民間企業の立地誘導による地域の活性化を促進します。

地域の力となる  
地区コミュニティセンター事業

地域コミュニティや地区・自治会のサポートをする地区担当者を配置します。また、その拠点として、既存の施設を活用した（仮称）地区コミュニティセンターを設置し、新たなつながりが生まれる場、地域における自治会活動や市民活動をサポートする場とします。

## 方針F 顔が見える地域経済をつくる

---

小商いからはじめよう  
チャレンジショップ推進事業

宮代町での起業を促進するため、空き店舗や公共施設の空きスペース等をチャレンジショップの場として、起業志望者に提供する仕組みづくりを行います。また、複数店が連続して空き店舗となったエリアについては、貸主などと連携して、「宮代〇〇ストリート」など特色のあるエリアの形成を促します。

身近な場所で子育てサロン事業

子育て中の方が孤立しないように、身近な飲食店や集会所等で地域の皆さんが実施する地域子育てサロンの開設・運営をサポートします。

### 構想3 さまざまな活動や主体を生み出す

#### 方針G 地域に人々が集まる場を生み出す

---

地域のみんでこどもたちの居場所づくり事業	子どもが孤立しないための居場所づくりを行う人や活動を応援し、地域の人々が主体となった取り組みを広げます。 また、学校に通えない児童生徒のために学外の教室を整備し、心の居場所や学びの機会を提供します。
身近な場所で子育てサロン事業 ※再掲	子育て中の方が孤立しないように、身近な飲食店や集会所等で地域の皆さんが実施する地域子育てサロンの開設・運営をサポートします。
まちなかどこでもミュージアム事業 ※再掲	既存施設や飲食店など、気軽に美術作品の展示や小さな演奏会ができるスペースを募集し、まちなかにおける作品展や音楽会の開催を促します。このことで地域の人材を発掘し、地域に人々の集まる新しい場所を生み出します。

#### 方針H 活動が生まれる「学び舎(学びのプラットフォーム)」づくり

---

進修館オープンカレッジ	地域づくりを担う人材やグループを生み出すため、様々な世代が定例的に集まり、地域の課題ややりたいことなどを語り合う場を設けます。様々な学び合いや実験的な取り組みを生み出し、参加者同士が触発される場とします。
おかえりなさい！ 地域デビュー事業	定年を迎えた世代が今までつながりが希薄であった地域で生き生きと活躍するため、地域デビューのきっかけづくりとなるイベントやワークショップなどを開催します。
西原自然の森活用事業 (新たな福祉の拠点づくり編)	再整備される旧ふれ愛センターを拠点に、社会福祉協議会と連携して、今日的な社会課題に対応したセミナーやイベントを開催し、ボランティアの裾野を広げます。ワークショップや交流会など、福祉団体同士が連携するきっかけとなるプラットホームづくりも支援します。
若い世代の健康づくり促進事業	健康で元気ある日々を過ごすためには、早期からの生活習慣が大切です。若い世代(20代~40代)の健康への関心を高めるため、オンラインによる教室や相談などライフスタイルに合わせたアプローチをします。
人権・平和推進事業	互いに人権を尊重しあい、真に豊かな安心して暮らしていける社会を実現するため、人権や平和に関する啓発活動を実施します。

## 方針 I 町の中のキープレイヤー同士で連携する

---

チームみやしろ会議	東武動物公園駅西口周辺エリアを対象に、東武動物公園や日本工業大学などのキープレイヤー同士が連携する組織を設立し、地域のブランド力向上やイメージアップを図ります。
-----------	--

## 方針 J 町の中の遊休スペースを効果的に活用する

---

遊休資源活用プロデュース事業 ※再掲	官・民を問わず、それぞれが所有する土地や施設などの遊休資源と人・団体等を結びつけ、町のような場所での活動の拠点づくりを行います。提案に対して場所を募集するサウンディング、場所に対して提案を募集するサウンディング、この2つを柱とします。
-----------------------	---

地域のプライベートパークをつくろう！ ※再掲	身近な街区公園等を一律に”児童公園”として位置付けるのではなく、人々のライフスタイルに合わせて、それぞれが特色のある”場”となるように再整備し、地域の人が集まる憩いの場（青空カフェ、移動販売、健康づくりパークなど）を地域の皆さんとともに作りあげます。
---------------------------	---

## 構想 4 社会環境の変化に対応し行政運営を変化させ続ける

### 方針 K 縦割りから横断的行政運営へ

---

西原自然の森活用事業 （新たな福祉の拠点づくり編）※再掲	再整備される旧ふれ愛センターを拠点に、社会福祉協議会と連携して、今日的な社会課題に対応したセミナーやイベントを開催し、ボランティアの裾野を広げます。ワークショップや交流会など、福祉団体同士が連携するきっかけとなるプラットホームづくりも支援します。
---------------------------------	---

チームみやしろ会議 ※再掲	東武動物公園駅西口周辺エリアを対象に、東武動物公園や日本工業大学などのキープレイヤー同士が連携する組織を設立し、地域のブランド力向上やイメージアップを図ります。
------------------	--

みんなで備える防災力強化促進事業	現実に起こりうる災害を想定し、行政、消防団はもとより、自主防災組織、学校等の関係団体とともに、実際の避難行動の一連の流れを体験する防災訓練を実施し、防災力を強化します。
------------------	--

## 方針L 多様な主体による公共の運営

---

高齢者困りごとサポート 隊事業	買い物や電球交換など高齢者の日常生活のちょっとした困りごとをサポートする地域内の助け合い活動の組織化を支援し、広げていきます。
日工大サイエンスプロジェクト	小中学校の理科の授業において、大学の施設や設備を使った専門家による科学体験を通して、子どもたちが興味をもって、自ら学ぶプロジェクトを始動します。
地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業 ※再掲	子どもが孤立しないための居場所づくりを行う人や活動を応援し、地域の人々が主体となった取り組みを広げます。 また、学校に通えない児童生徒のために学外の教室を整備し、心の居場所や学びの機会を提供します。

## 方針M 今後求められる機能を核とした公共施設の再編

---

公共施設マネジメント 計画 2.0	平成23年11月に策定した公共施設マネジメント計画から10年。新たなマネジメント計画をつくり今後の公共施設のあり方、施設の機能転換など、中期的なビジョンを定めます。
宮代町立小中学校適正配置事業	社会の変化に対応した最良な教育環境を子どもたちに提供するために、小中学校の適正な配置を進めていきます。